

令和2年度普及活動外部評価会
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言
(全体をとおして)

1 普及指導活動の体制（課内の分担・活動の進ちょく管理・普及指導員の資質向上の取組）

- 少ない職員数の所属もあるが、効率的に普及するため地域と連携して取り組む。
- テーマをよく考えて所内研修が出来ている。各所属で職員に必要な研修は違うので、引き続き工夫して実施して欲しい。
- 定期的にチーム会を開催し進捗管理ができています。
- 世代交代の時代に入ってきており、見える化するなどICTも活用して技術を伝承する。
- 最先端のICT技術の知識習得には負担がかかるが、農家は普及を頼りにしており、引き続いて指導する。大学でもIoP塾などオンラインで見えるので、普及も研修や教育面で活用する。

2 普及指導活動の計画（普及課題の設定・対象の設定・関係機関との連携・目標設定）

- 現状把握、課題設定、目標の項目立てはよくできている。
- 栽培技術だけでなく、いろいろな面で支援しており、農家のことを思って活動していることが良くわかった。栽培や経営に対する意識を変えることができない農家もいるので、普及が背中を押してあげて欲しい。
- 担い手確保は喫緊の課題である。関係機関と連携し引き続きJA出資型法人等の経営対策にも支援をして欲しい。
- 新規就農者だけでなく、ベテラン生産者の研修に対する意識改革にも力を入れ、研修会や講演会の参加者を増やす。
- コロナ禍により消費者ニーズが変化し、ブランド化や生産量の増加など産地課題や目的も変化している。柔軟な対応が必要であり、施策の方向転換などに即した普及課題を検討する。
- 数値目標の根拠が不十分なものがある。目標値は必ずしも高くなくて良いが、活動が頑張れるように達成できて喜べる目標を立てる。

3 普及指導活動の成果（活動の経過・実績・成果・結果の周知）

- スマート農業に関連した指導が実施され始めている。今後、新規就農者受入れや高齢者対策等の課題でも活用が必要と思われる。
- 活動実績の結果は、次の計画に活かすことができるよう要因を分析する。
- 普及活動は、成果が現れるまで時間のかかる仕事である。関係者以外には成果がわかりにくい部分もあるので、日頃から活動をPRする。

4 外部評価会に対する意見

- コロナ禍のため開催時期や方法、参集範囲を調整するなど、安全に配慮して外部評価を実施した。

5 その他

- コロナ禍で普及がたいへんな時期であり、人のつながりが重要であることを実感できたと思う。
- 農業振興センターは親身になって相談にのってくれている。普及の仕事は農家に頼られる存在であることがわかった。